

# ゆうすいの詩集 7



さくらしまゆうすい

## この町での奇跡

---

君は卒業したら東京へ出ていくんだね  
東京に行ってから連絡してくれるって約束してくれた  
メールや電話でしか君のことを聴けなくなるんだね  
離れていても二人で過ごした日々は思い出せる  
でも二人の将来は約束できないと君は答えた  
僕は君とまた過ごせることを待ち続けるしかない

僕は東京へは一回しか行ったことがない  
いい景色もあれば汚いところもあると思えたよ  
いい景色ばかり出会えばいいけどね  
それはこの町でも同じことかもしれない

二人はまだ若いからやり直しはできるけど  
できればこのまま離れずにいられたらよかったけどね  
君は愛が距離を超えられるか  
愛が距離に負けてしまうか  
そんな淋しいことを言っていた  
二人の未来の約束はないけれど  
二人で同じ時間 同じ場所で過ごせた  
それはこの世界の奇跡だと思う

僕が東京へ行くことがあったら案内してよ  
ひと時だけれどまた君と同じ時間を過ごせるし

僕はこの町に残ると決めたから  
君がこっちへ戻ってくることを願っている

東京はほとんどテレビの中の世界  
その東京へ行ってしまふ君がうらやましくもある  
君はこの町のことなど忘れてしまうのだろうか  
いつか故郷を懐かしく思い出せるだろうか

僕は大切なものを失った気持ちになる  
東京へ行くことではしゃいでいる君にはわかるだろうか  
この町には大学もないし

職場も少ないから仕方がない

この町も次第にさびれていくだろう

そのうち君もこの町に戻りたいと思ってほしい

君が言っていた愛は距離を超えられると思うよ

いつか僕の所へ戻っておいで

東京で幸せに暮らせるのならあきらめるしかないけどね

君とこの町で巡り合えた奇跡

ずっと胸の中に刻みこんでおきたい

## 黄色い花が咲く頃

---

君の手を引いて堤防の上を歩いて行った  
あの頃のことを君は覚えているだろうか  
土手には一面に黄色い花が咲いていて  
春の訪れを感じさせていた  
君は微笑みを浮かべながら黄色い花を眺めて  
風に髪をなびかせていた

この川は君と初めて手をつないで歩いた思い出の場所  
そんな頃もあったねと君は笑顔になった  
君の笑顔にしわも増えたけど  
この川は変わらず春が来れば  
黄色い花の景色を見せてくれる  
今でも春に二人で黄色い花に囲まれながら  
堤防を歩く若者たちはいるのだろうか

なぜか今頃そんなことを思いだした  
また春になったら二人で堤防の上を歩こうか  
もう手をつないで歩くような歳でもないけど  
ただ君との思い出を大切にしたい  
そして、君と一緒にあってよかったと感じ合いたい  
また黄色い花は二人を迎えてくれるだろう

## みんなにありがとう

---

もう大丈夫  
一人で歩いていけそう  
今まで支えてくれてありがとう  
迷惑かけたりしたこともあったけど  
これからは  
一人でも生きていけそう

もう今年も寒くなってきたね  
もうすぐ年が明けていくんだね  
街角はイルミネーションで輝き  
人々は楽しそうに過ごしている

今まで生きてきて  
大切なことも失ったりしたけど  
新しく手に入れたこともあったり  
悲しいことばかり思い出したりしてたけど  
今は未来のことを考えて生きている  
人をうらやましく思ってたばかりいたけど  
僕は僕のままがいい

そして僕は孤独だと思っていたけど  
いろんな人たちから支えられていると気づいたから  
これからは僕がみんなのことを支えてあげられるといいんだけどね

## 恋をするだけでも

---

君は誰かに恋をしているのかな  
以前より輝いて見えるよ  
僕は気が多く思われるかもしれないけど  
誰かに恋をしていなきゃダメな人間だから  
恋をするって楽しいことだよ  
たとえそれが片思いでも  
生きていることも楽しくなるよね  
今の君ならわかるでしょう

好きだって言葉はなかなか言えないけど  
言葉にしなきゃ始まらないよね  
僕は歌うことが好きだけど  
歌なら自分の気持ちを素直に表現できるから  
僕は君に歌で伝えるよ  
君の気持ちも誰かに伝わるといいね  
僕も大切な誰かを見つけたい  
多分みんなそのために生きているんだよ  
僕も希望だけは持ち続けているから  
見えない明日を信じて生きるよ

## 人を信じたい

---

人を信じたい  
もっと人を信じたい  
もっともっと人を信じられるようになりたい  
人を疑ってばかりの人生にはもう飽きた  
時には人からいじわるされたり  
騙されたりすることもあるだろう  
しかしそのたびにいちいち傷ついていたら  
世の中を渡っていくことは難しくなるよ  
この世は自分にとって都合のいい人ばかりじゃない  
自分に都合が悪くても  
悪い人だとは限らない  
そういう僕だってそうだろう

人を傷つけたらいずれは自分に返ってくる  
そういうことに気付いただけでも  
この世に生まれた価値がある  
心が傷つくのは何か原因があるのだろう  
体の傷がいやされても  
心の傷はなかなか癒されない  
人を傷つけて得をすることなんて何かあるのだろうか  
自分自身が傷ついた方がいくらか楽だろう  
そう気づかされただけでも  
やっぱり生きてきてよかったと思う  
自分から人には優しくできないけど  
この世の中も  
そんなに悪いことばかりじゃないよ

## たとえ世界中を敵にまわしても

---

たとえ世界中の人たちを敵にまわしても  
ただ君だけを愛せばいい  
たとえ世界中の人から恨まれても  
ただ君だけを信じられればいい  
君は僕の心に明かりをともしてくれた  
それまでの僕の心は暗く荒んでいた  
僕は世界中を恨んでいた  
でもそれは間違いだと気づかせてくれた  
世界を恨めば恨むほど自分自身を傷つけていた  
君と出会えて世界は変わった  
この世は天国にも思えてきた  
君に恋をするだけで  
世界も人々も僕自身も変えることができる  
君は気づかせてくれた  
人を愛することを  
君は気づかせてくれた  
世界を愛することを  
たとえ世界中の人々に恨まれたとしても  
僕は世界の人々のために祈り続けよう  
そして君のことを愛し続けられればいい



## 生まれ変わるたびに故郷は

---

人は今まで何回生まれ変わってきたのだろう  
そのたびに失敗を繰り返しては  
生まれてきたことを後悔する  
そして性懲りもなく  
再び生まれ変わる  
僕が生まれ変わっても  
歴史が動くわけでもないのに  
それでも生まれ変わっては  
同じような人生を過ごす  
誰からも褒められるわけでもなく  
どこからも勲章をもらえるわけでもない  
不幸な出来事が起こるたび  
不幸になる理由があるのだと気づかされるまで  
人は何回生まれ変わらなければならないのだろう  
しかし幸せな人生をただ何も気づかずに過ごすより  
不幸な人生の理由を知るだけでも  
生まれ変わってきた価値があるのだろう

生まれ変わるたびに故郷が変わる  
どの国も自分の故郷だと気づけば  
どんな国でも腹の底から憎むことはできない  
初めて会った人なのに  
懐かしく感じる人もいる  
きっとその人とは昔の故郷で出会っていたのだろう  
憎らしくてたまらない人も  
どこかで戦い続けていた相手なのかもしれない

人は過去を簡単に忘れたようでも  
自分でも気づかずに覚えているものなのだろう  
人々が時々故郷に帰るのは  
思い出を振り返ることに幸せを感じるから  
人々が故郷を捨てるように出ていくのは  
そこがかつて都ではなかったから  
人が職業を持たなければならなくなったのは  
人々が助け合って生きていけなくなったから

本来は助け合って生きていたはずなのに  
助け合う手段さえも知らないし  
試みることも知らない  
奪い合うことだけを教わり  
与え合うことを知らない  
人々は現代の人間の方が優れているように思い込んでいるけど  
昔の人々の方が助け合って生きていたし  
それが一番賢い生き方だとわかっていた  
現代の世界でも与え合うことは  
許されることだと思いたい

## 少女から大人へ

---

いつまでも少女のままではいけない  
君もいつの間にか大人になったね  
君が僕のそばから遠ざかっていくようで  
なんだか寂しい気持ちになった

君に大切な人ができたって噂で聞いたよ  
君が選んだ相手だから  
きっと素敵な人なんだろうね  
でも彼氏の名前なんて聞きたくないよ  
多分ジェラシー感じると思うから  
でも君には幸せになってほしい  
君が不幸そうにしている顔なんて観たくない

恋をするって大事なことだよ  
恋をするたびに人を愛せるようになるから  
そんなことを思っていたら  
ふいに君からメールが届いたよ  
まだ僕のことを友達とってくれているようだね  
男女の友情ってあると思うよ  
僕も君以上に素敵な人を見つけるよ  
お互い幸せになろう